

## 奈良・平城宮跡（第二十九次）

1	所在地	奈良市佐紀町・法華寺町・北新町	(1)	「未選秦人行 仕丁建部乙公	(139) × (45) × (5) 081	111111〇号
2	調査期間	一九六六年（昭41）七月～十一月	(2)	「凡直□□□白米五斗」 × □丸部臣廣庭×	141 × 19 × 4 031	1111111号
3	発掘機関	奈良国立文化財研究所	(3)	× □□ 加利等一尾治宇 × □	091	111111八号
4	調査担当者	樋本亀次郎	(4)	091	111111六号	
5	遺跡の種類	宮殿・官衙跡				
6	遺跡の年代	奈良時代～平安初期				
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要					
この調査は、一九六六年当時、平城宮の東面南門推定地とされていた地点を含んで行った。その結果、宮城東面大垣は調査地域東端で発見したが、推定地には門の遺構はなく、大垣もそれ以北へつながる形跡はなかった。木簡は平城宮東面大垣の西側を北から南に流れる溝SD三四一〇とそれに併行する溝SD四四八八、および、調査地域の西端の土壤SK四三五五から出土した。SD三四一〇からは計八点、SD四四三三からは一〇〇点、SK四三五五から一点出土した、総計一二〇点である。						
9	関係文献					
奈良國立文化財研究所 『平城宮発掘調査出土木簡概報四』 同 『平城宮木簡三』						
8	木簡の釋文・内容					
（鬼頭清明） 一九六七年 一九八〇年						